

DNA認識拡張機構からたどる 根粒共生鍵転写因子の進化

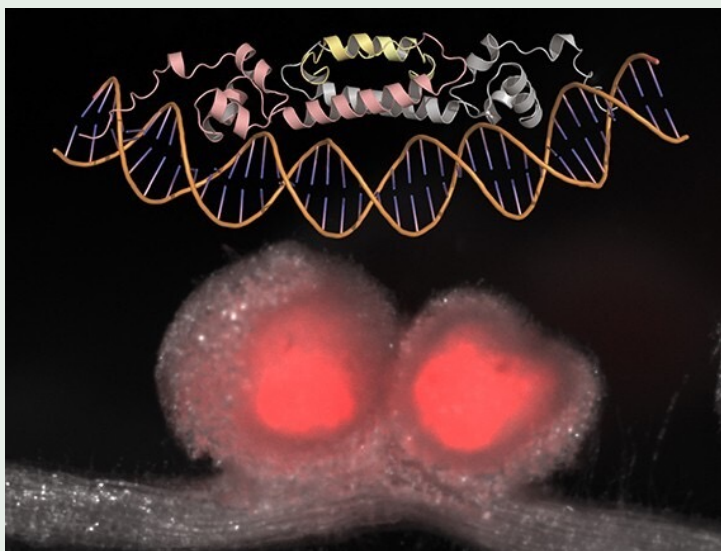


のさき しょうへい

野崎 翔平 先生

筑波大学 生命環境系 助教

2026年10月16日（金）
14:25~15:55（7・8時限）
農学総合棟504



根粒共生は、マメ科など一部の真正双子葉植物が根粒菌と共生し、大気中窒素を利用可能にする仕組みである。この共生を成立させる遺伝子発現プログラムの中心的制御因子が転写因子 NIN である。NIN は硝酸応答転写因子 NLP から進化した因子であるが、その機能進化を支えた分子機構は長らく不明であった。本講演では、我々が明らかにした NIN の広範な DNA 結合選択性を中心に、その分子構造基盤、NLP から NIN への機能進化の過程、さらに根粒共生獲得との関連について最新の知見を紹介する。



関連文献

Nosaki*, Noda *et al.*

Science Advances 12, eaeb8825 (2026).

===世話人===

西山 康太郎

静岡大学 農学部

nishiyama.kotaro@shizuoka.ac.jp

===支援===

静岡大学 テニユアトラック支援チーム